

# 科学の神秘、魅力体験

## 細胞生物学研究など35団体ブース 20日、飯塚でサイエンスモール

子どもたちに科学の楽しさを知ってもらおうと、地元大学や高校、企業が出展する「サイエンスモールin飯塚」が20日、飯塚市飯塚のコミュニティセンタール賞にもつながった細胞生物学の研究解説など、35団

体がブースを構え、子どもから大人まで楽しめる内容となっている。市図書館や九州工業大、西日本新聞社などで行くサイエンスモール実行委員会が主催。入場無料。

今回の目玉は、細胞生物学に詳しい帝京大理工学部客員教授(東京大名誉教授)の塩川光一郎氏による「アフリカツメガエルの研究」の発表。細胞の不思議を映

像や顕微鏡を使って説明する。2012年にノーベル賞(医学・生理学部門)を共同受賞したジョン・ガードンケンブリッジ大名誉教授と山中伸弥京都大教授によるカエルのクローンやヒトiPS細胞の研究についても、塩川氏が分かりやすく解説する。会場には国際会議の様子をポスター展示し、科学の最先端を体験でき



サイエンスモールでスライム作りの実験ブースを設ける鞍手高の生徒たち

九工大情報工学部はマイクロボットの操作体験など5ブースを出展。近畿大産業理工学部は化学物質を使って液晶を作る実験教室など4ブースを開く。理数系の先進的な教育に取り組む文部科学省のスーパーサイエンスハイスクールに指定されている嘉穂高(飯塚市)と鞍手高(直方市)は、それぞれ天体望遠鏡を使った太陽の観察やスライム作りのブースを設ける。前日の19日にはプレイベントとして、絵本の読み聞かせと理科の実験を組み合わせた「理科読」の教室を開催。「体のつくり」をテーマに食べ物はどうやって体の栄養になるのか、クイズを交えて教える。市図書館の大石俊一館長は「県内では筑豊地区だけ児童科学館がないが、サイエンスモールでは科学の神秘や魅力を体験できる。ノーベル賞を目指すような科学者が出てくるきっかけになれば」と期待する。市図書館0948(22)5552。(山本諒)

市図書館0948(22)5552。(山本諒)